

2024年9月8日(日)

中国新聞 SELECT 掲載

# JICA だより



尾道市在住  
植西ジャケリーネ  
夢さん(27)  
ブラジル・サンパウロ州  
出身

NPPO法人工房尾道帆布  
(尾道市)で5月から、JICAの日系社会研修「伝統的産品を活用した地域ブランドの創出と地域の活性化」に参加している。

JICA研修員受け入れ事業の一つである「日系社会研修」は中南米地域の日系社会への技術協力を通じて、日系社会の発展と移住先国の国づくりに貢献する

ことを目的としている。尾道帆布は、20年以上前

## 伝統の帆布作りを学ぶ

に尾道でよく使われていた帆布を使ってお土産になる小物を作り始めた。現在尾道帆布は尾道市の伝統的なお土産品になり、さまざまなかばんや小物がお店で販売されている。



尾道帆布でミシンを使って縫製作業をする植西さん

私はそこで、小物やバッグの制作について学んでいる。尾道帆布のほかにも、尾道市はアーティストが多く住んでいるため伝統的な物作りや技術を体験することができ、藍染め、柿渋染

めや植物染めを経験した。藍染め体験については実際に藍の苗を植えて育て、その生葉からどのように日本の伝統的な「青」が生まれるかを見ることができ、とても勉強になった。

ブラジルにある材料をどうやって使っているかが楽しみである。また、織物

やつまみ細工なども体験することができた。こうした伝統的な知識を一つでも多く覚えて、ブラジルの人々に伝えていきたい。

尾道に住み、いろいろな方と会い、尾道の人々がどのようにまちづくりや地域活性化のために取り組んでいるかを学ぶことがこの研修に参加した目的である。帰国後は、ここで学んだ知識や経験を地元の日系コミュニティの人たちと共有し、今後どのように人を集めてコミュニティを活性化していくかを一緒に考えていきたい。